

「土地に言葉あり」方言の話

ご当地グルメ、ご当地検定など、ご当地はすでにブームではなく、安定した人気になっています。方言も、日本の文化をより豊かにするもの、生活に根ざしたあたたかみのある貴重な言葉として役割が見直されています。



方言文化!!

明治時代までは方言だけで生活していた

明治の中ごろまで日本には方言しかなく、大多数の人は方言だけで生活していました。明治政府は意思の疎通を図るのに苦勞し、東京方言をベースに現実には存在しない標準語を作り、学校教育で普及を図りました。その結果、方言は「訛(なま)っている」など否定的に捉えられがちでした。しかし現在では方言は文化、共通語は道具として、ほとんどの人がこの2つを使い分けていると言われています。

地域の活性化にも貢献!

マスコミの発達などによる方言の衰退に対し、方言を守ろうという機運が各地で高まっています。方言の積極的な活用が地域の活性化にもつながっているようです。

【お知らせ】

本誌1月号コラム「平成21年(丑年)はどんな年?」にて、11月12日を「天皇陛下在位20周年を祝う臨時の休日」とお知らせしましたが、休日化のための法案が7月21日の衆院解散で廃案となったため、9月1日現在では休日になる見通しはたっていません。不正確な情報を掲載しましたことをお詫びいたします。

【今月のことば】

できない理由、失敗した理由は必ず自分の内にある

渡邊美樹(ワタミ代表取締役会長)

居酒屋と定食屋の中間業態「居食屋」として成功した「和民」。現在全国に約600店舗を展開、中国・香港への出店など拡大を続ける一方で、教育、農業、環境、介護などの分野にも進出している。この言葉は、成功のためには、できない理由、失敗の理由を他人や周囲のせいせず、自分の内にあると考えることが成功のポイントであるという意味ではないだろうか。

積極的に活用される方言

ご当地PR

- 観光キャッチコピー：「ようきんさった」(よくいらしゃいました/兵庫県)
- 広告：「ちいーとこすにゃーか」(割り込みは)ズルくないですか?/名古屋)
- 商品名・屋号：「なじらね」(いかがですか?/新潟)……

方言で車内販売

方言での観光案内や商店の接客、新幹線の車内販売などが大好評。山形新幹線では、方言接客で平均の2倍を売り上げるカリスマ車内販売員も登場。



ご当地ヒーロー

方言でしゃべり、土地の名物を武器に戦うヒーローが全国に200以上も存在。秋田や沖縄などでは、イベントを開けば毎回大人から子供まで千人以上が詰めかけるといふ。秋田のヒーロー「超神ネイガー」の名前の由来は、ナマハゲの叫び声「泣ぐ子は居ねがあ!」から。



泣ぐ子は居ねがあ!

パソコンの日本語入力システム

方言がパソコンや携帯電話で頻繁に入力されるようになったことに対応し、ジャストシステムのATOKは北海道東北・関東・中部北陸・関西・中国四国・九州の各方言入力モードを用意。

「きょうもよかてんきばい」

一般モード 変換 → 今日も / 余暇 / 転記 / 倍 など

話し言葉九州モード 変換 → 今日も / よか / 天気ばい